

The University of Aizu
Center for Cultural Research and Studies
Annual Review No.29, 2022

会津大学文化研究センター
研 究 年 報

第29号
2022



会津大学

2023年3月発行

目次

| | Page |
|---|---------------|
| 巻頭言 | |
| ・ 前進 —2022 年度活動報告— | 苅間澤 勇人 1 |
| 論文 | |
| ・ 2022 年度会津大学新入生の生活と意識に関する調査 | 蛭名 正司・沖 和砂 5 |
| ・ 2022 年度会津大学生の生活と意識に関する調査 | 沖 和砂・蛭名 正司 27 |
| ・ 割合の非加法性の理解を促進する教授法の検討 —ICT を活用した割合の数対生成・参照活動に注目して— | 蛭名 正司 77 |
| 研究・教育・活動報告 | |
| ・ 網谷 祐一 | 93 |
| ・ 池本 淳一 | 94 |
| ・ 蛭名 正司 | 95 |
| ・ 小川 千里 | 96 |
| ・ 沖 和砂 | 97 |
| ・ 苅間澤 勇人 | 98 |
| ・ 小暮 克夫 | 99 |
| ・ 清野 正哉 | 100 |
| ・ 中澤 謙 | 101 |

【巻頭言】

前進 —2022 年度活動報告—

文化研究センター長 荻間澤 勇人

2022 年度も新型コロナウイルスの影響が続きました。しかし、コロナ禍の感染対策が当たり前になり、新しい日常に慣れてきたように思います。文化研究センターに目を向けると、さまざまな業務が続き慌ただしい1年でした。本センターの1年を人事と研究に分けて振り返りたいと思います。

はじめに人事についてです。2022 年度も大きな人事がありました。

本センターの教官を1名増員することになり、3月から審査委員会を立ち上げて教官採用に向けて歩み出しました。学生に「ベンチャー企業論（日本語、英語）」などを提供したいと考えて、「経営学」の教官を公募しました。採用業務が順調に進み10月から小川千里先生をお迎えしました。

4月に沖和砂先生のテニユア審査委員会を立ち上げて、7月にプレゼンテーションによる審査がありました。研究や教育、学内貢献や地域貢献の活動が計画を上回っていることが確認されて「良好」との評価を得ました。プレゼンテーションの準備の際、昨年度に続き、本センター職員が集まって事前練習をしました。それがスマートなプレゼンテーションにつながったと思いました。なお、審査員から「文化研究センターの発展に向けてさらに力を発揮してほしい」とのコメントがありました。

10月から蛭名庄司先生が上級准教授になられました。本学に着任して4年となり、その間、教職課程を担当されながらアカデミック・スキルの担当者として本センターをまとめてくださいました。そういった成果が認められての昇進となりました。審査員から「教職課程の運営に期待する」とのコメントがありました。

つぎに研究についてです。4月に蛭名庄司先生と沖和砂先生が学内の競争的研究費に応募しました。これも本センターで事前練習をしました。いろいろな意見が出されて充実した練習となりました。プレゼンテーションの本番には本センターの教官も応援に行きました。その結果、両名の研究費が認められました。本学は研究大学を目指してクラスター制によるチーム型研究を行っています。2022 年度、蛭名先生と荻間澤が「スマート教育環境」のクラスターに参加しました。

最後になりましたが、年度末に清野先生が御勇退されました。本学では、ご専門の法学の他に「日本国憲法」「アカデミック・スキル」、そして「情報倫理」の授業をご担当くださいました。長年勤務のご勤務に心から感謝を申し上げます。御勇退後の生活についてお聞きしておりませんが、つぎのステージでのご活躍をご祈念いたします。

2023 年は本学開学 30 周年を迎えます。さまざまな祝福事業が進行すると思います。研究と教育、事業に文化研究センター一丸となって取り組み前進したいと思います。

